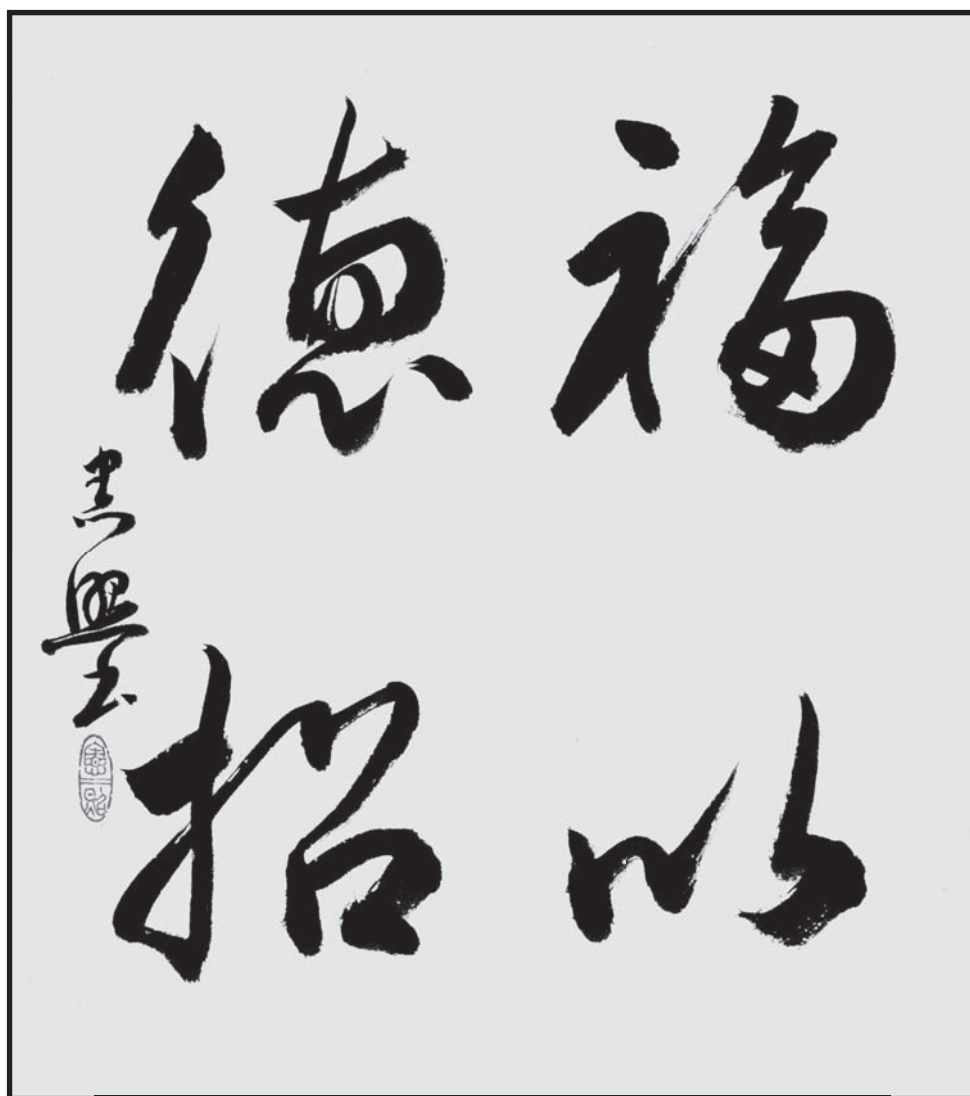


色紙を書く(6)

締切り 六月二十四日(必着)

奥村憲照先生書



〔読み〕

福^{ふくはとくをもつてまねく}以徳招

〔大意〕

幸せは、その人の徳によって得られるものである。

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。

◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。

◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

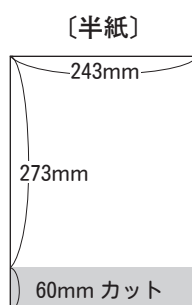
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部Ⅱ左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



▼硬筆部Ⅱ右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×一一一mm)になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具(フェルトペン・マッチ棒・割り箸等)がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

間
欲
望
性
分
時
代

◎今月は楷書。丁寧に文字を書くには、心を落ち着かせ集中して用紙に向かう。形を整えるには文字のアウトラインを、特に意識することが大切です。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

人間の欲望や性分は
いつの時代でも
同じものである

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

賢
者
己
敵
多
学

中心線
日は中心より
右側に

多	己	賢
く	の	者
の	敵	は
こ	か	
と	ら	
を		
学		
ぶ		

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★賢者…（書体＝行書）

アリストファネス（西四四〇～三六〇）

古代ギリシアの喜劇作家

自分の敵は、自分を映す鏡です。敵対する者を憎んだり罵るのは誰でもできますが、学ぶことは賢者にしかできません。

また、敵は勝つためには相手のことをよく知っておく必要があります。反面教師としても、冷静によく学んでおくことが大切です。

◆7月課題予告（楷書）

才能がなくとも

努力は人を

前進させる

★人間…（書体＝楷書）

マキアヴェリ（一四六九～一五二七）

イタリアの政治思想家・歴史家

知識や科学が発達し生活の有様が大きく変わっても、また政治がどんな形体であったとしても、結局のところ人間の欲望や性分はいつも同じなのではないでしょうか。よって過去の出来事を丹念に検討すれば将来すべき対処法がみえてくるはずですよ。

◆7月課題予告（行書）

大事なのは

事実の発見よりは

価値の発見だろう

▼教範・書範＝楷書

▼師範＝行草または草書

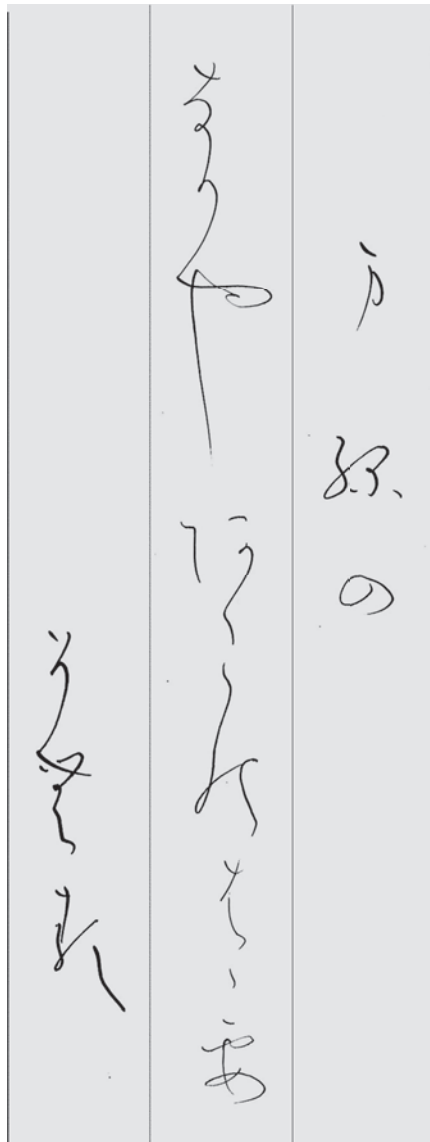
一般部かな課題

締切り 6月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

万緑の中や吾子の齒生え初むる



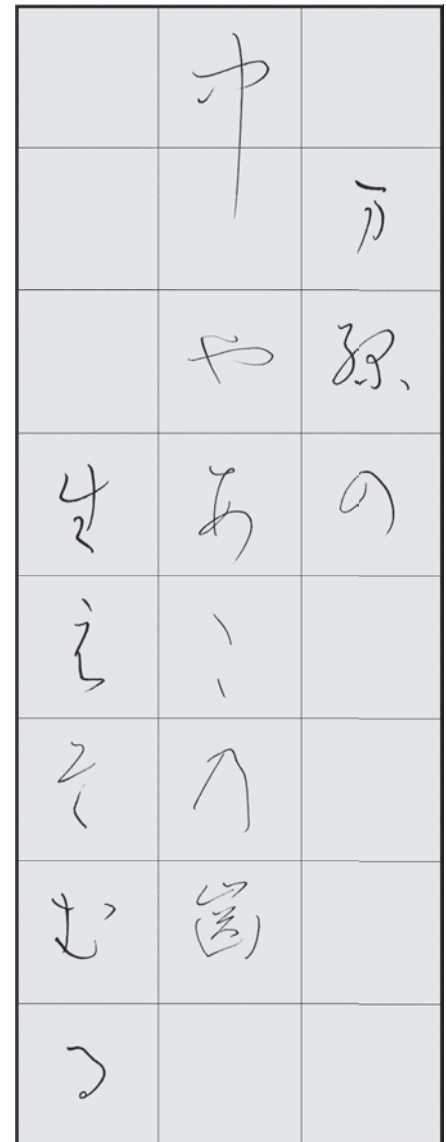
万緑の中や吾子の齒生え初むる

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

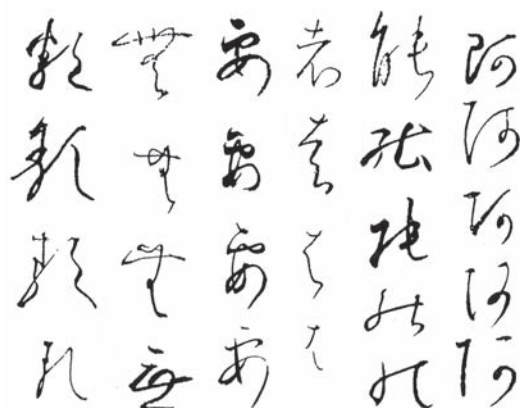
▷用紙=本会級位用紙

◆7月課題予告

乳母車夏の怒濤によこむきに

(橋本多佳子)

類る 無む 要え 者は 能の 阿あ



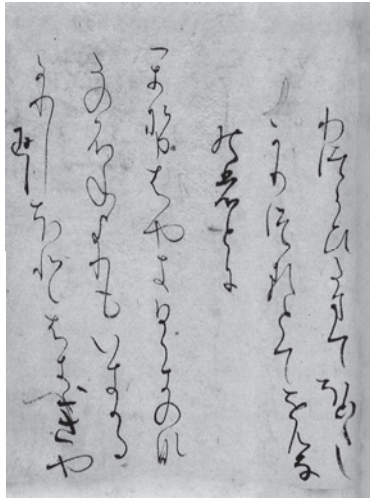
〔古筆参考〕

万緑の中や吾子の齒生え初むる
(中村草田男)

〔句意〕見渡すかぎりあたり一面、草も木も深緑に覆われる夏となった。この生命力溢れる緑の中で、いとし我が幼子に、真っ白な歯が生え初めたことである。

〔古筆参考〕

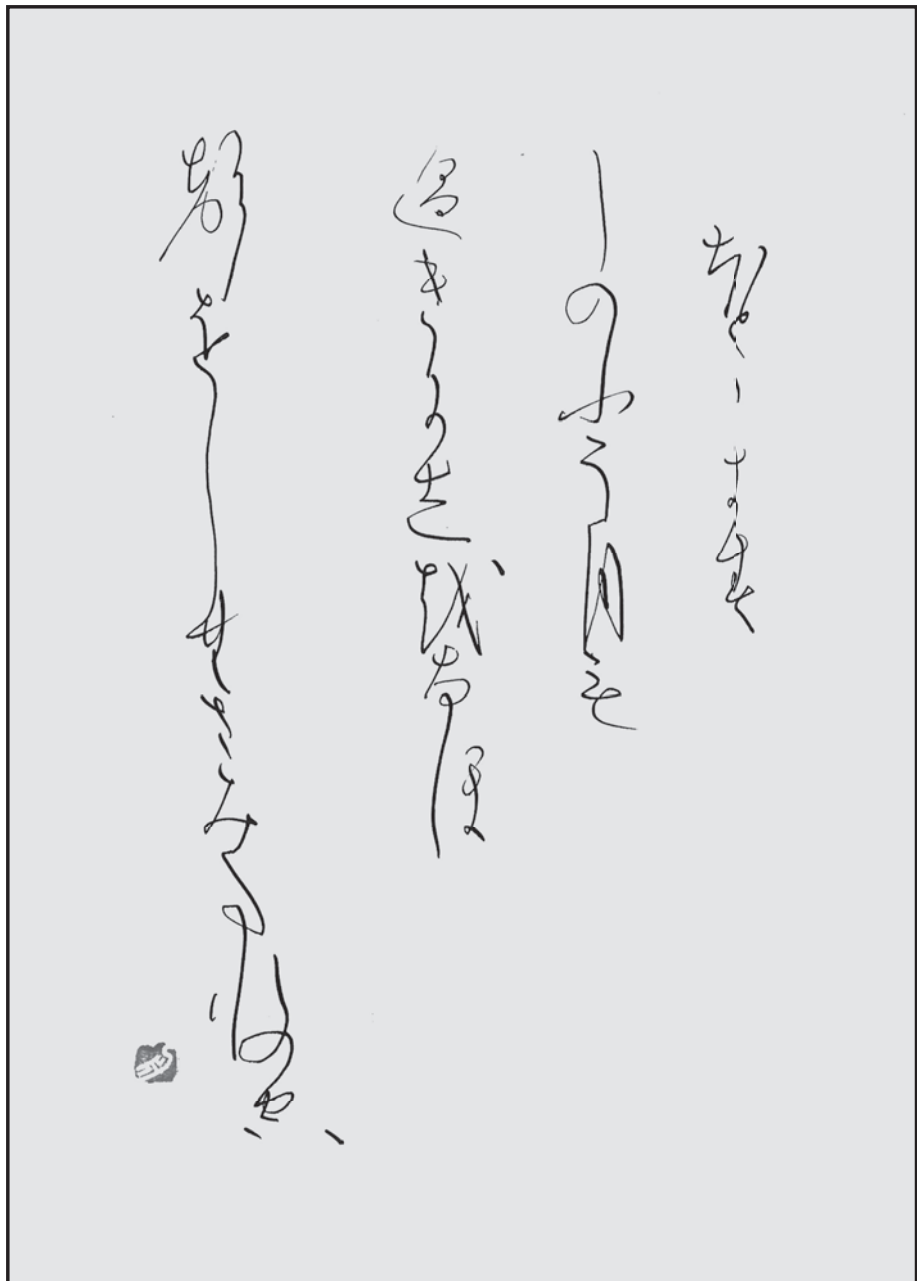
いちじょうせつしやうしゅう
一条摂政集



わづらひたまてほとくし
可利徒類 多万本
かりつるとて、をむな
能蒙 尔
のもとに
閑勢者 文日 支那
かぜはやきひゞきのな
多不年 利 支可多
だのふねよりもいきがた
可利本 登者 支
かりしほどはきゝきや
返し

締切り 六月二十四日（必着）

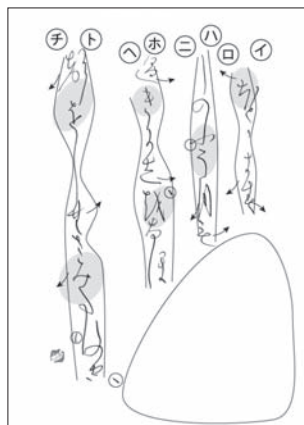
築瀬舟香書



本、文春
ほととぎすしのぶ卯月も過ぎにしを
奈を 無さみ多れ
なほ声惜しむ五月雨の空

〔歌意〕郭公は、忍び音で鳴いた陰曆四月も過ぎてしまったのに、五月雨の降る空のもとでなお声を出し惜しみしで鳴いている事である。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）
〔解説〕



- ・ ①と②、①と③、①と④、呼応。
- ・ ①と⑤、①と⑥、⑤と⑥、①と⑦、行のふくらみ注意。
- ・ 行の中の密の部分の動きに注意。
- ・ 線の指向性大切。
- ・ ①の位置注意。（余白をしめる仕事）

◆7月課題予告

露おもみ園のなでしこいかならん
あらく見えつる夕立の空

締切り 6月24日(必着)

月初めに結婚五十周年の記念にと
利尻^{りしり}、礼文^{れぶん}へ列車と船の旅をした
のは良かったものゝ、そのつけで
今大忙しです。雨が降ってやっと
競書を書き始めましたが、疲れて
目もかすみ、少しも進みません。

◎手本は水性ボールペン使用

月初めに結婚五十周年の記念にと
利尻、礼文へ列車と船の旅をした
のは良かったものゝ、そのつけで
今大忙しです。雨が降ってやっと
競書を書き始めましたが、疲れて
目もかすみ、少しも進みません。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

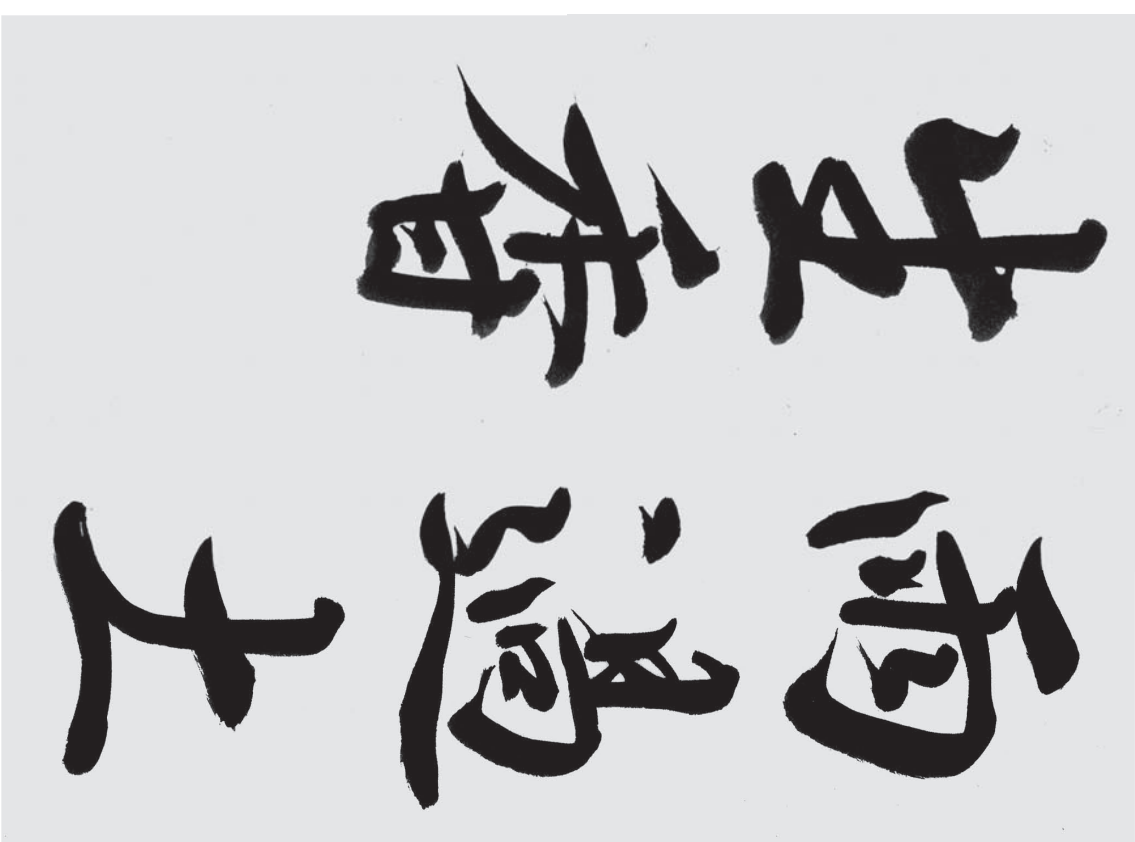
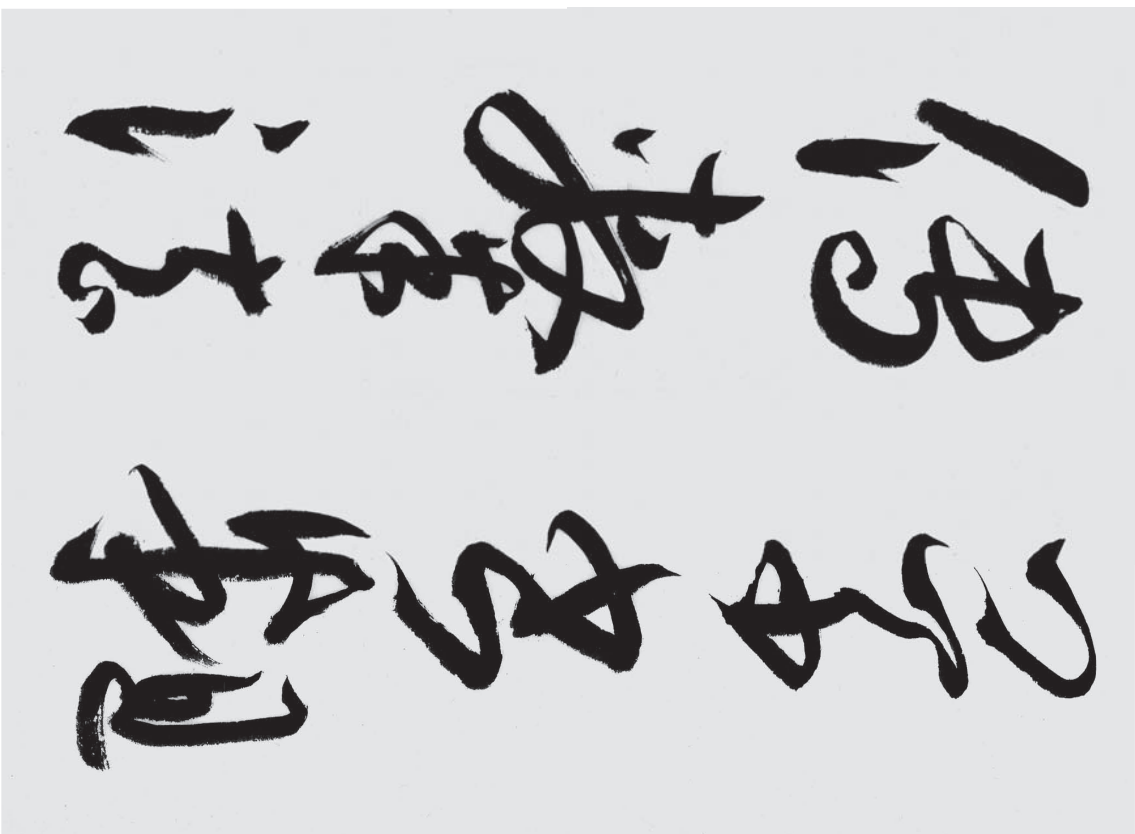
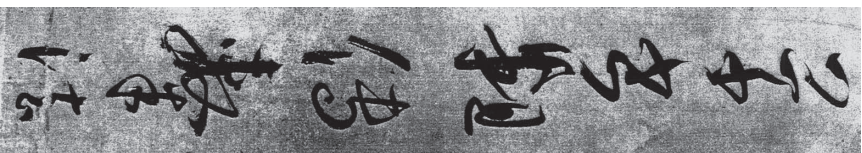
花の王者バラの歴史は古く、紀元
前1200年から栽培されている。

沖縄県宜野湾市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 6月24日(必着)



準初段から師範まで

奥村暢之 臨

新入から1級まで (行書)

須田一葉 書

草

書

粗

傳

隸

法

〔出典〕 書譜 (687) 〔筆者〕 孫過庭 (648?～703?)

〔読み〕 草書を(解し、)粗隸法を伝えるも、

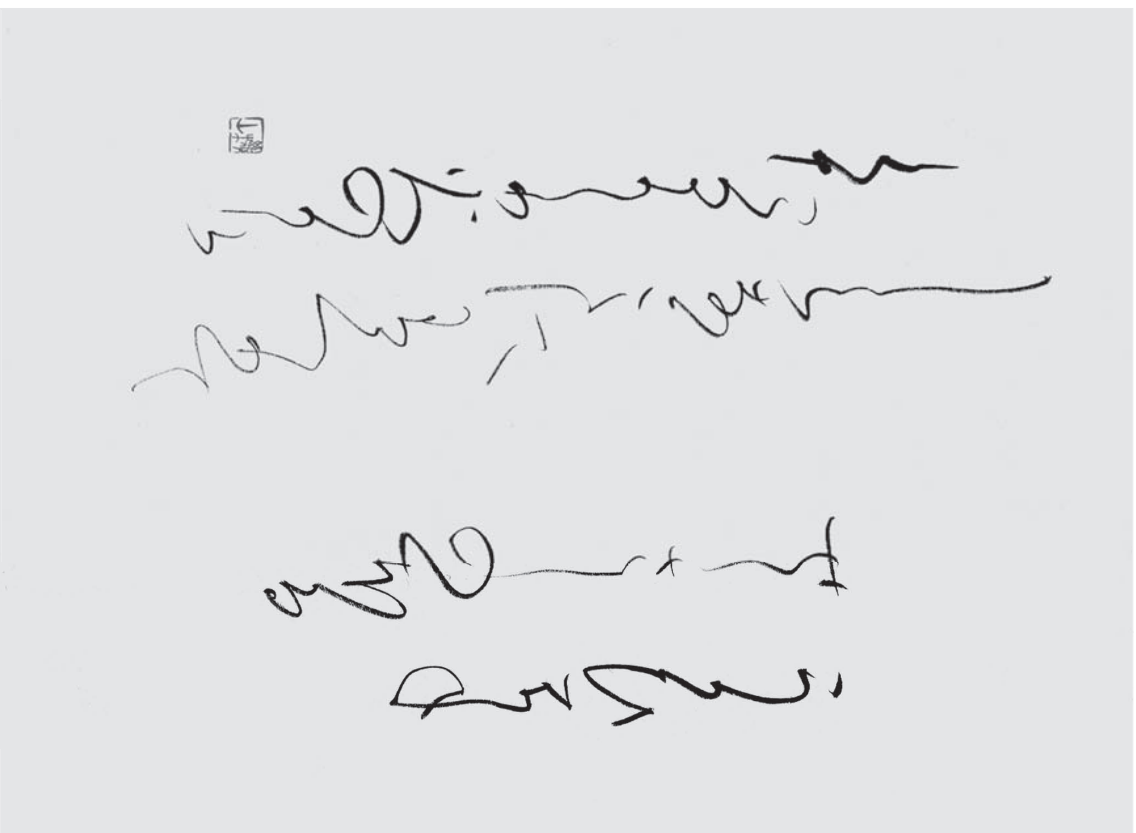
※書譜の特徴「節筆」が明快な部分です。節筆を意識して書きました。

一般部毛筆かな課題

締切り 6月24日(必着)

※検定試験三段コース以上を兼ねる。

鵜飼舟瀬々さしのぼる白浪に
映りてくだる篝火のかげ



〔出典〕 藤原為世

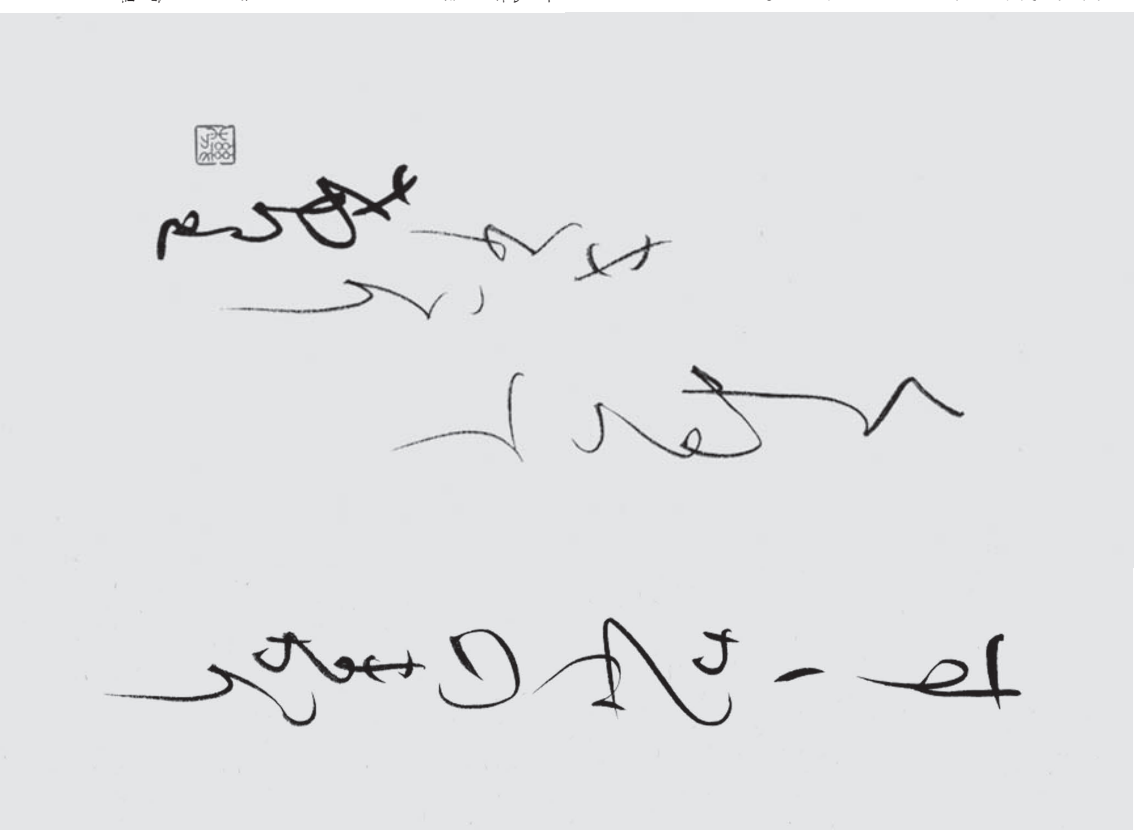
〔歌意〕 鵜飼舟よ。あちらの瀬こちらの瀬をさかのぼっていく白浪に、

その光が映りながらくだっていく舟の篝火よ。

準初段から師範まで

※検定試験一級コースを兼ねる。

涼風の曲がりくねって来たりけり



〔出典〕 小林一茶

〔句意〕 「曲がりくねって」にあたりの裏長屋一帯のさまが見える。一茶

の自嘲がのぞいている。

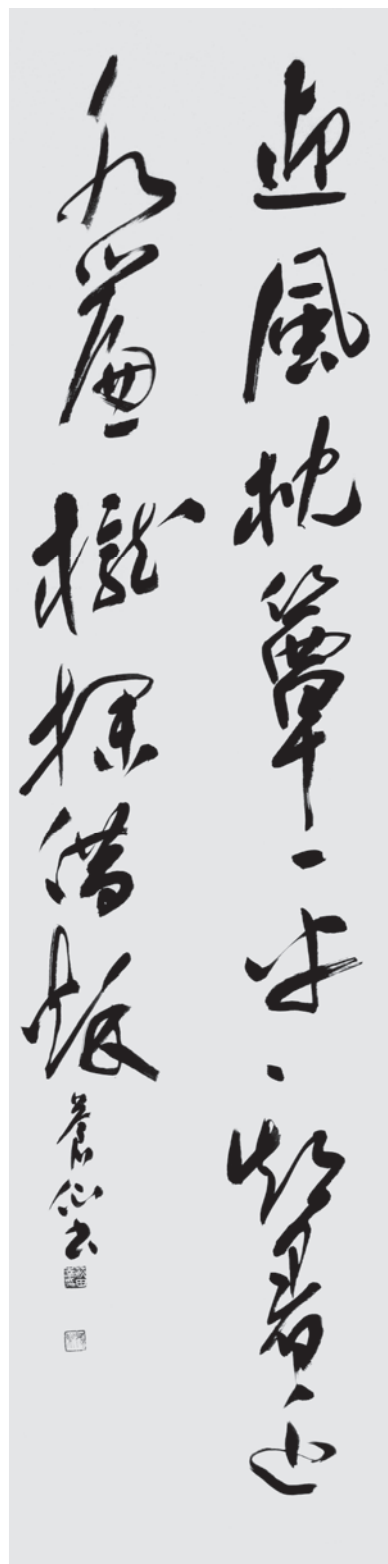
新入から一級まで

浅井機山先生書

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 六月二十四日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）



荻 田 蒼 仙 書

かぜをむかうるちんでんしよをへいきし
迎風枕簟平期暑
みすにちかきれんろうあきをたんしやくす
近水簾櫳探借秋

〔大意〕竹むしろの上
に寝てあれば風がきて
夏を忘れしめ、小窓は
水が近いから夏でも秋
と同じである。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕墨つぎ以外は筆脈を切らぬよう次の
一画で一息を入れ、そして前のリズムに乗って
書き進めます。絶えず線が浮かないように、筆
の捻れを生かして線の重厚さを意識してくださ
い。

書 華 玲 田 樋

半紙（334mm×240mm）

月末のゴルフのお約束ですが急な
用事でご一読できずうすまた

を前に申し諒なく残念では方

ありませんがまた誘って下さいね

新川 嘉子

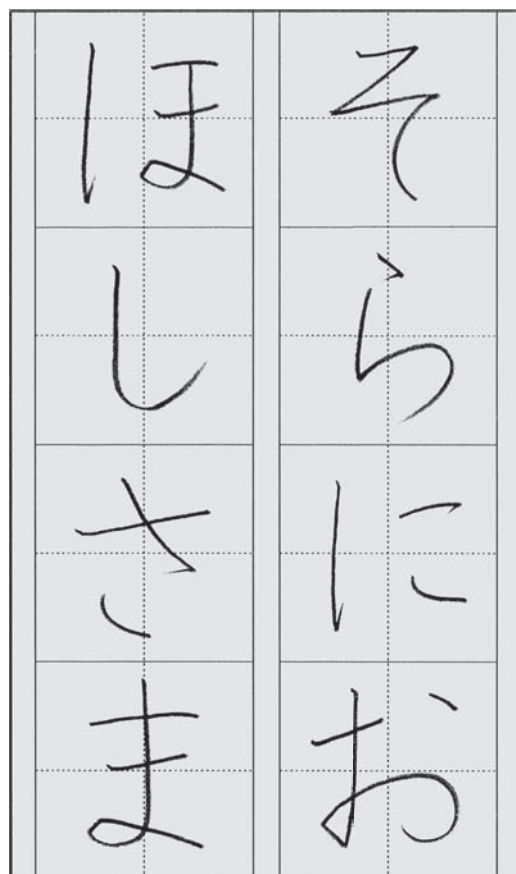
※検定試験三段コースを兼ねる。

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

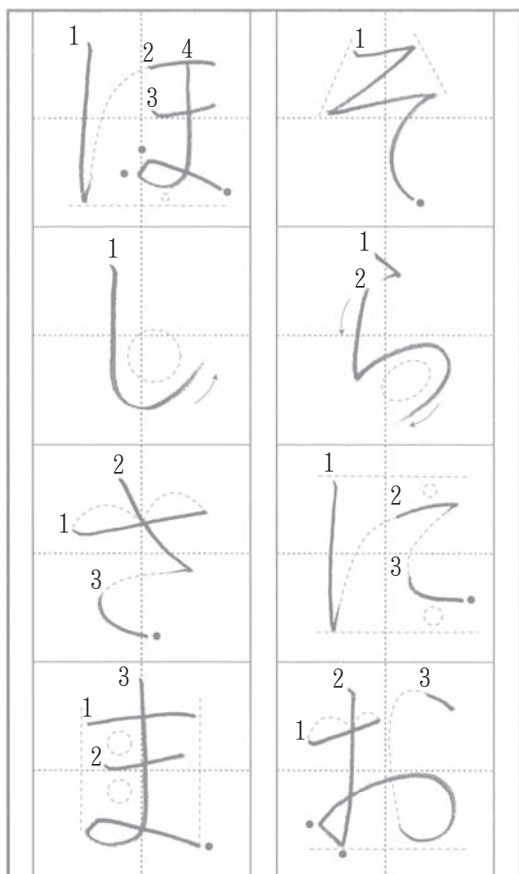
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ
う
年



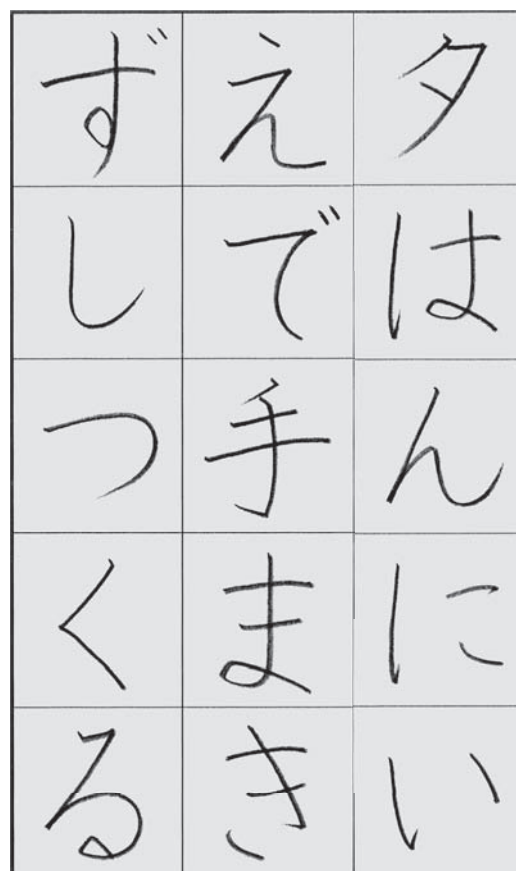
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



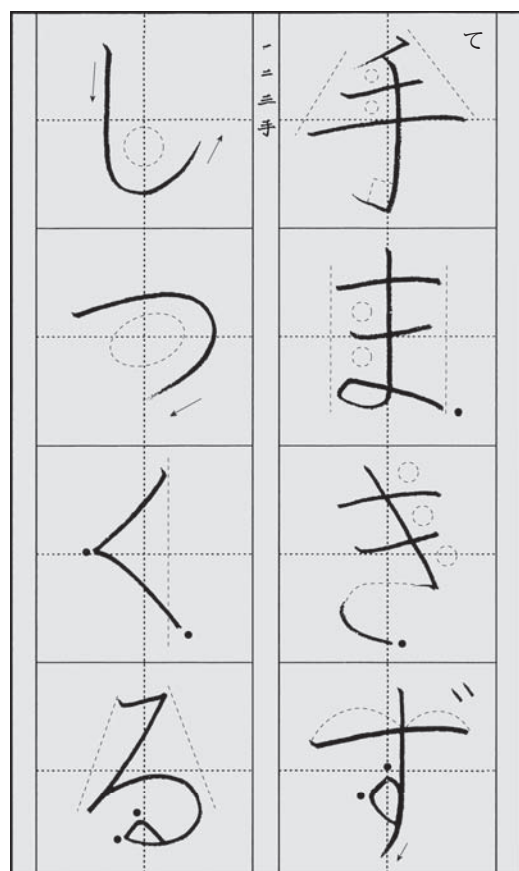
〈ようぐ〉自由(黒色にかきえる)

小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級



幼年〜小三年まで 三宅容玉書

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

い	一
毛	本
糸	の
を	長

イッ
ポ
ン
な
が
け
一
十
オ
木
本
い
と
一
十
五
長
糸

新入1級

び	毛	一
あ	糸	本
や	を	の
と	む	長
り	す	い

小二年

準初段以上

強	手
始	話
め	の
た	勉

キ
ヨ
ウ
一
ニ
三
手
シ
ユ
ハ
ジ
一
ニ
三
話
ワ
ベ
ン
タ
メ
タ
勉

新入1級

強	と	お
を	手	姉
始	話	ち
め	の	や
た	勉	ん

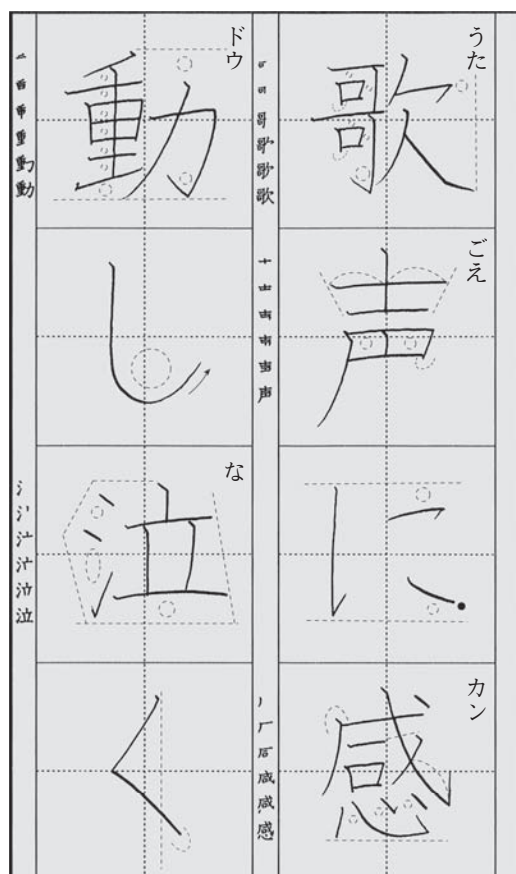
小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

*用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬^{かた}くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。

*六月締切り分までは、この方法が続けます。

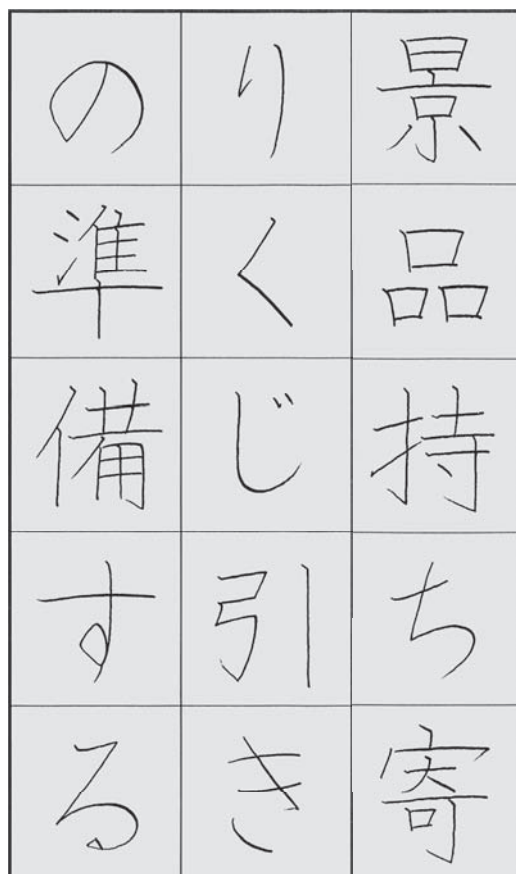
*ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。

*七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

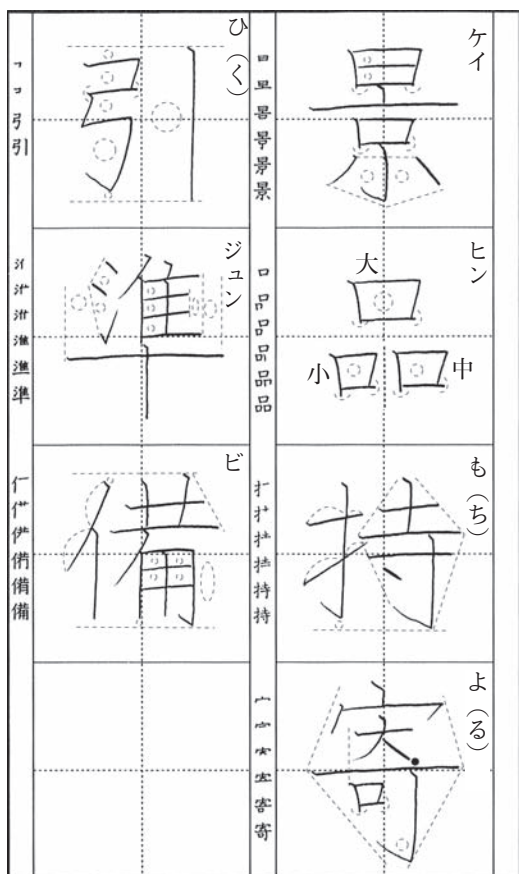
小五年

(全員)



小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)



小四年以上 岡嶋桂川書

小六年

た	保	長
伝	存	年
統	し	大
芸	て	切
能	き	に

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

伝	長
統	年
芸	保
能	存

中一年

の	浜	夕
写	辺	暮
真	で	れ
撮	趣	時
る	味	の

(楷書)

中二・三年

(楷書)

に	料	得
振	理	意
る	を	の
舞	知	中
う	人	華

〈用具〉自由(黒色に限る)

◎お手本はつけペン使用

▼小三年以下の課題 いけ がみ こう えん 池 上 紅 苑 書

本 ^{ほん}	大 ^{だい}	図 ^と	ゆ	雨 ^{あめ}
を	す	書 ^{しょ}	っ	の
読 ^よ	き	室 ^{しつ}	く	日 ^ひ
み	な	で	り	は
ま			と	
す				



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 6月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 さ とう ほう らん 佐 藤 芳 蘭 書

服 ^{ふく}	家 ^か	母 ^{はは}	変 ^か	季 ^き
を	族 ^{ぞく}	は	わ	節 ^{せつ}
衣 ^{ころも}	み	一 ^{ひとり}	り	の
替 ^が	んな	で	目 ^め	
え	の		に	
し				
た				

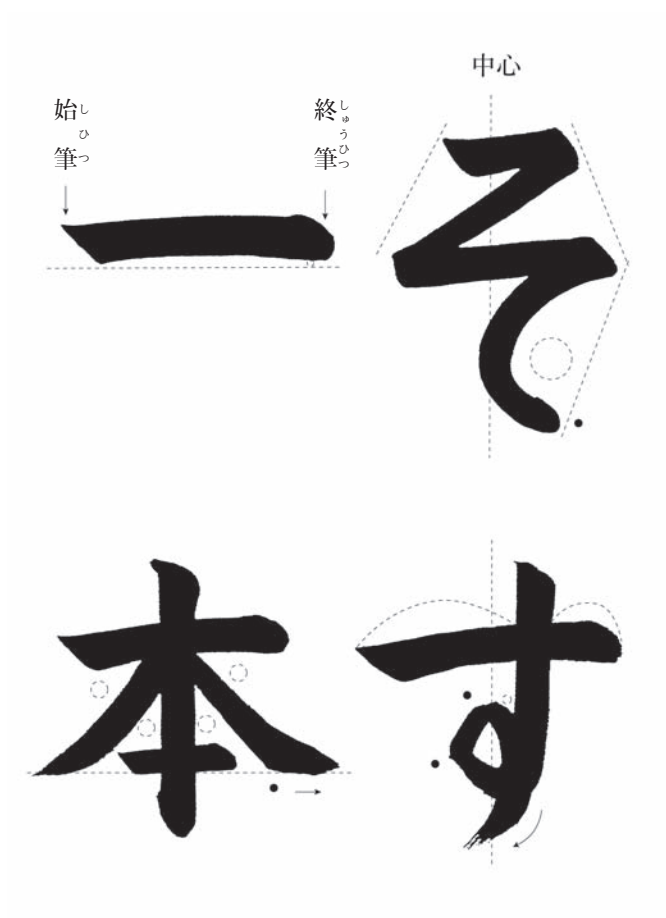


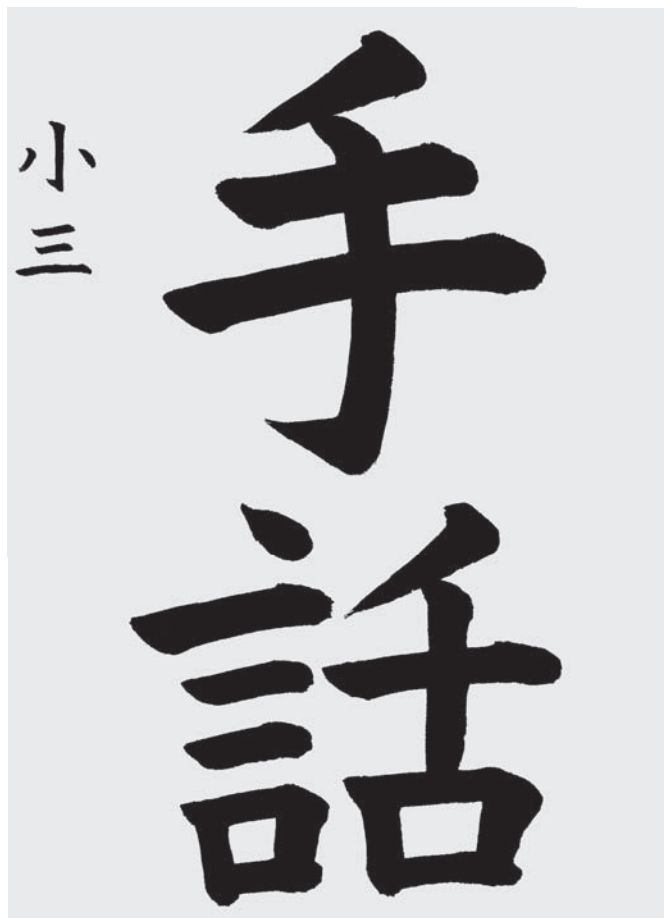
◎お手本はつけペン使用





幼年／小二年
玉樹小
華書





小三・小五年

水野香竹書

中三
料中華
理

芸伝
小六
統

時

伝

華

統

料

暮

中一
れ夕
時暮